

# ベースボールカフェ

NO.16

2020年7月10日

三好ベースボールアカデミー

三好泰宏

TEL・FAX 011-897-3535

携帯 090-59892587

E-mail: [my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp](mailto:my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp)



## ご挨拶

コロナ禍でプロ野球は無観戦の試合が展開されています。テレビで見る限り、静かに観戦ができて支障はありませんが、選手はどうでしょうか。

間もなく観衆が入るようになりますが、鳴り物入りは禁止されるでしょう。メジャーの試合では声援だけです。これを機会に応援も進化して欲しいと思っています。

## エース

野球は投手、巨人軍のエース、菅野投手が完投で勝利した。近頃は完投する投手が少ないだけに頼もしく思っている。

本来、先発投手というものは、完投を目標にマウンドに立つのである。近頃はメジャーにまねて、5回までは責任投球と投げているようだが、勝ち投手の権利を以て降板しても次の投手が打たれ負けると、負け投手にはならないが悔いは残るであろう。

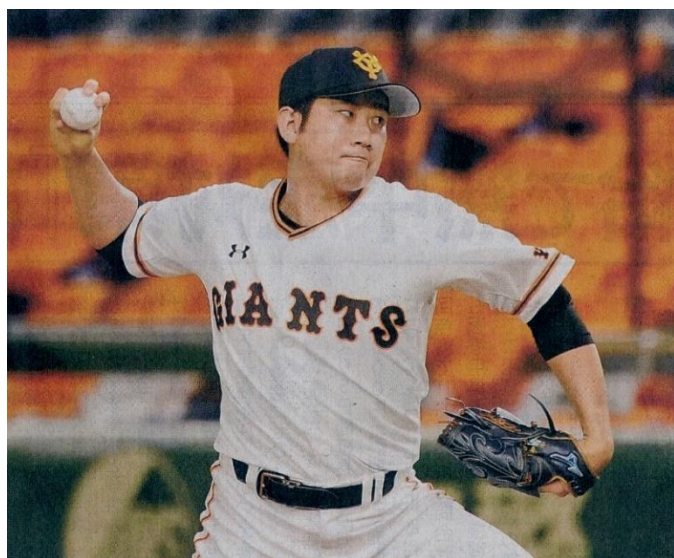
菅野投手は、原辰徳監督の妹の子であるから甥っ子に当たる。その妹とは、体力に恵まれ、父親の原貢氏は冗談交じり息子より上を行くと語っていた。

結婚の相手もプレッシャーがかかっていたと思うが、幼年期から指導され、見事に実現した。

本人は他界した。天国から二人の活躍を見守っていると思う。

エースとは、プライドと自信を持たなければならないが自論であった。

同感である。エースはチームの柱である。でも、持ちつ持たれつ々の精神をもってチームに貢献しなければならない。そのためには、自らを磨き、仲間から尊敬される人間性も身につけなければならない。



## 他のスポーツから学ぶ

いま女子ゴルフの選手が飛ばす距離は、その昔、男子が飛ばしていたところまで向上している。その要因はいくつかある。まずは技術と体力である。

スイングを観察すると、大半の選手が同じようなフォームである。注目は、打った後の足腰の安定感である。

野球でも、ホームランを打った後に、このよう姿を見ることが出来る。

技術の習得は、正しい理論と反復練習である。どのような努力をしてここまで来たか、ゴルフ雑誌を見る価値はあると思う。

## 指導

現役は既に終わっているのだが、未だに指導の研究だけは続けている。

「両手で捕れ」、「正面に入れ」、これが基本の基本と言われていた時代に監督になった。素人監督が特別なことでもやったら揶揄された時代でもあった。

冷静に考えると、物理的にもバスケットボールのように両手では捕れないのである。

甲子園に初出場した翌年3月（1977年）、ベースボールの本質を知るためにメジャーまで勉強に行った。そこで目にしたのは「シンプルと自主性」のベースボールであった。

今は「グラブで捕れ」と指導しているが、これでシングルキャッチも逆シングルキャッチも出来て守備範囲も広がる。

捕球したボールを、ホッピングしながら、胸の前に持ってきて送球する。メジャーの選手はこんな感じである。

バットスイングは、「ゴルフの科学」河村龍馬先生のボールを遠くに飛ばすには、バックspinがかかっているとホームランにはならない。これらは現役が終わってから確立した理論である。

いずれにしても、指導とは研究を怠らず、自主練習がしたくなるような指導でなければならないと思っている。